

2 1. 生産者の所得向上を目指した「スーパー母豚」

自家農場作出システムの構築

農林水産研究指導センター畜産研究部

○後藤雅昭・佐藤邦雄・(病鑑)利光昭彦

1 背景

養豚農家の所得は肥育豚の出荷頭数に依るところが大きいことから、高繁殖能力・高泌乳能力を備えた種豚群の編成が鍵となる。近年では繁殖能力の高い合成豚あるいは海外種豚の導入が広がりつつあるが、これらは高価なため、家族経営のような中規模農家だけでなく、企業経営の大規模農家でも導入は困難である。

そこで、①当センターで各品種・系統別に育種改良した種豚および精液を生産者へ供給し、②母豚の繁殖・泌乳能力を数値化した種豚SPI（母豚繁殖指数）のランキングをデータベース化、③各生産農場のトップクラスの種豚に対し、種豚の適正交配を指導するというシステムの構築を試みたので、その概要を報告する。

2 試験方法

(1) 各品種の系統別育種改良および種豚、精液の供給

種豚の育種改良を目的とし、国内種豚場より生体3頭（ランドレース、大ヨークシャー、デュロック（以下、L、W、D））、アメリカのSGI社より凍結精液7系統（L：3系統、W：3系統、D：1系統）を導入した。次に、導入した生体、精液に加え、過去に当研究部で製造した高能力雄豚の凍結精液を用いて種豚を育成、SPIに基づいた選抜・淘汰により種豚群を作出した。

(2) 生産者の種豚SPIランキングのデータベース化および種豚の適正交配指導

主に畜産研究部より種豚を導入している2農場をモデル農家とし、種豚のランキングをデータベース化した。次に、各生産農場の上位母豚に対し産子数、産子の発育・育成頭数に貢献していると考えられる系統の雄豚を選択し、適正交配を指導することで各生産農場におけるスーパー母豚の作出に取り組んだ。

3 結果および考察

(1) 畜産研究部における成績（平成28年度）

畜産研究部で飼養している種雌豚のSPIは、L、W、F1（LW等）で25年度成績と比較して112%、114%、129%に向上した。さらに、全体の分娩成績は一腹あたり平均離乳頭数が10.6頭/腹、年間の離乳頭数は25.4頭となり、25年度成績（8.5頭/腹および20.4頭/腹）と比較して一母豚あたりの年間離乳頭数は5頭増加した。

(2) モデル農家での実績

県内A農家（母豚250頭規模）およびB農家（同100頭規模）の成績は、取組の前後で一母豚あたりの年間離乳頭数が1.2頭/腹および2.7頭/腹増加した。

本試験結果より、生体および精液の外部導入によって育種改良を実施し、SPIに基づく選抜淘汰を実施することで、短い期間で年間離乳頭数を増加できることが明らかとなった。